

シルクスクリーンの作業手順

◆シルク買出しについて

シルクで最低限必要なものはテトロン（網目200）、ペッタンコA、ペッタンコB、乳剤（ミノライト）、ハイゾール、インク（スリーエー）、布テープ、画用紙。他にセロテープ、洗剤、スポンジも必要。ゴム手袋、軍手はあると手が汚れにくくて便利。

◆2週間前～1週間前

テープ、画用紙以外の各残量と状態を確認し、「美濃商事」へ買出しに行く。全部を一度に買うとかなり高額になり、重い。2万円前後持っていないと足りなくなることもあるので注意。

必ず「同志社大学クラマ画会」で領収書をもらう。

インク（スリーエー）は在庫がないことが多いので、10日前には予約に行くか、電話で在庫確認しておく。

テトロンは「必要な版数＋予備版数＋2m」程あると良い。

乳剤は開けてから3ヶ月が消費期限なのでそれも確認する。まれに凍ってたりもするので、一応中の状態も見ておく。そして購入後、使う2日前までに薬剤を混ぜておけば、準備当日には泡立ちが消える。

ペッタンコやハイゾールは、いつの間にか蒸発してしまっていることも多いので、必ず確認しておく。

◆1週間前～当日

シルク原案者が、原案の拡大コピー、画用紙を買いに行く。

画用紙は場合にもよるが、普段の展覧会なら40枚ほど、オリテやEVE祭は実行委員から指示された枚数に従う。

大学購買や丸太町駅近くにある「松吉画材」や「tag」、五条烏丸上った「TAG」などが便利。

拡大コピーは丸太町駅西の「平安光業」が近くて良い。

◆美濃商事について

京都市中京区西洞院通二条上ル 美濃商事株式会社

TEL (075)211-4416 (代表)

<http://www.minoshoji.co.jp/>

営業時間 月曜～金曜、午前10時～午後4時

丸太町駅から西へ向かい、西洞院通を下ります

◆平安光業について

京都市中京区丸太町通烏丸西入ル北側

TEL (075)231-1177

受付時間 月曜～金曜、午前9時～午後5時

土曜、午前9時～午後2時

・ 原案作り

まず、原案者は原案となる元絵を描く。ただし基本的には一色につき一版使用するので、色数を増やしすぎると作業量が増えてしまい大変なことになってしまう。よって大体平均4版くらいで行われる。

具体的には描いた絵の中から同じ色の部分を拾っていき、それらを色ごとに別々の紙に描き分ける。描き分けた後はその色のつく部分をマジックなどで黒く塗りつぶす（色むらがあるとうまく感光できないため）。塗りつぶす際にはみ出た部分やコピーする際に出る黒い点などは修正液を使わずに紙ごと切り抜く。このとき使用する紙として普通は模造紙やコピー用紙を使う。シルクの前案では光をあまりにも通さないような分厚い紙に描いてはいけない。

部展の場合、美術部クラマ画会、展覧会場、期間、開催時間を明記すること。

・ 実作業

作業1

ペッタンコ塗り（ペッタンコA液、包丁や割り箸など液を伸ばすもの、アルミ枠）

まず前回のシルクの前案のテトロンをアルミ枠からはがす。

アルミ枠の片側の面にペッタンコA液を塗る。

塗る前によくかき混ぜること。塗るときは薄くまんべんなく全面に。厚いと乾かないし薄いとテトロンが張り付かない。

約一時間乾かす。

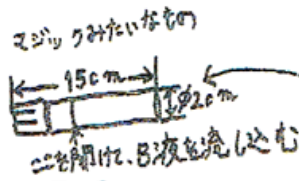
この間に原案をチェック。塗りが薄くて向こうが透けて見える部分はマジックなどで塗りなおし。はみ出た部分はカッターで切り抜く。

作業2

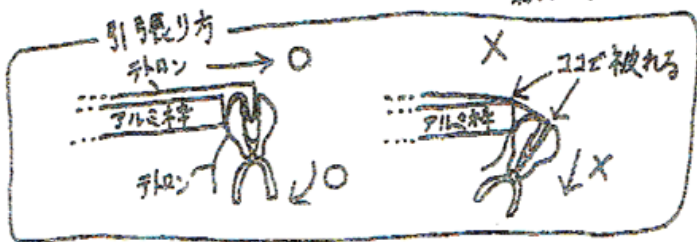
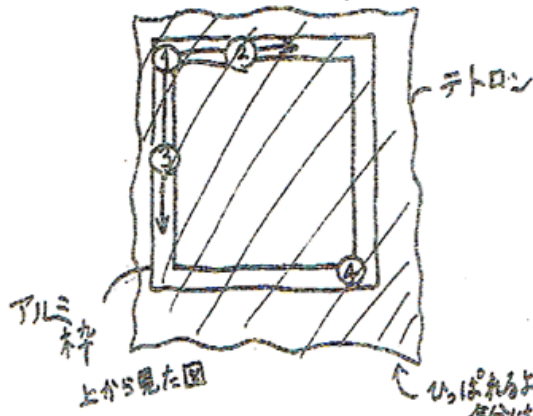
シルク張り（テトロン、枠、はさみ、ヒップラー、ペッタンコB液、テトロンの切れはし、スポンジ、ホース）

アルミ枠よりも少し大きめにテトロンを切る。

貼る手順



ペッタンコBを用意。①まず角を1つとめる。とめるときはテトロンの上からB液を塗り、一時的にA液を溶かしてからこすり付けてやる。こするときはテトロンの切れ端を手に巻いて力いっぱい激しくこすって乾かす。
②の方向にヒッパラーでテトロンを引っ張り、B液で同様に溶かしてこの辺を全部こすって貼る。同様に③を張ったら、対角線に引っ張り④をとめる。④は仮どめなので適度でよい。

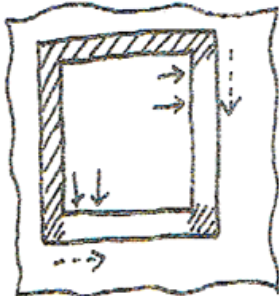


ヒッパラーの使い方



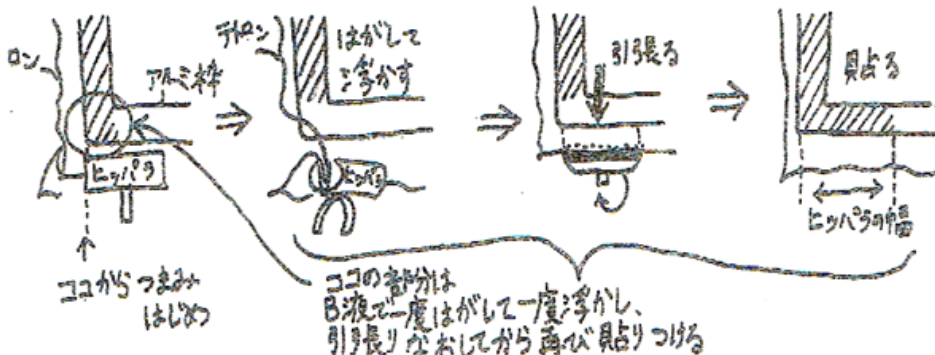
ココから見た図

テロンをつまむときは、一度折り返して2枚をはさむ様に

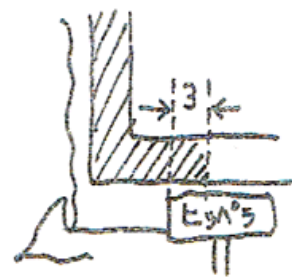


点線の順に進んでいく。

次に図の左端または上端 (つまり貼り付けた辺の方から順に) 矢印の方へ引っ張り、貼り付けていく。ただし交互にではなくあくまで一辺ずつ完成させる。引っ張り方は先ほどと同様だが図のように進める。



次つまむところは3cmくらいかぶったところをつかみ、同様に一度はがして引っ張り、つけ直す。



このくらいえい

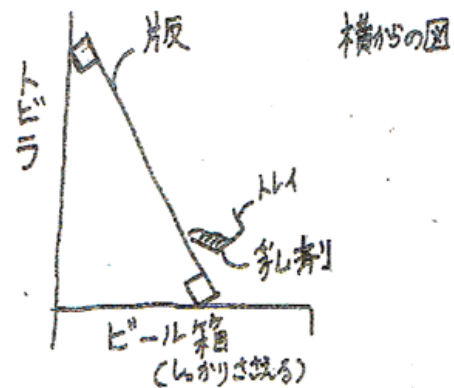
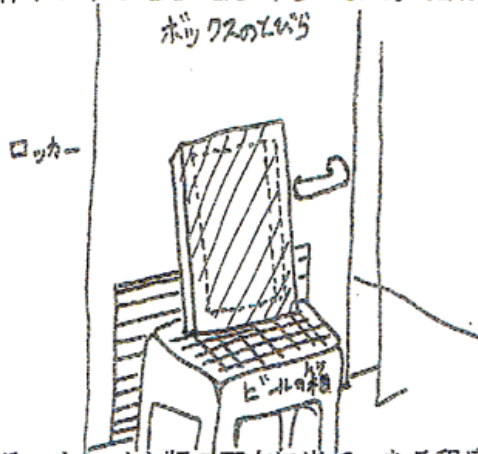
張れたら枠から2cmくらいだけ残してあまったテトロンを切り捨てる。乳剤に張り付くので長い糸くずは残さず切り落とすこと。色の数+2版くらい予備に張る必要がある。す

すべての版が張れたら旧館のトイレへ版を持って行き、洗剤とスポンジで洗い、水で汚れを落とす。洗った版は汚れがつかないように気をつけてボックス内に立てかけ完全に乾くまで待つ。

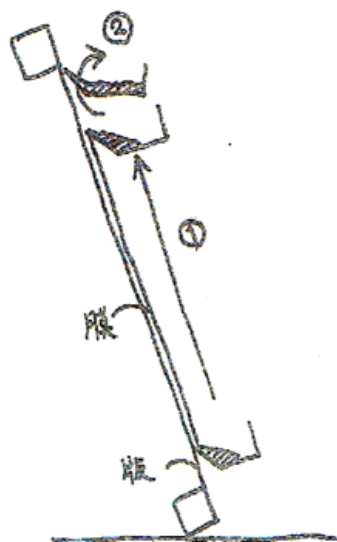
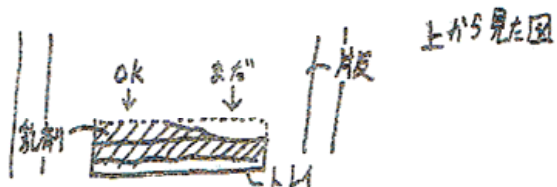
作業3

乳剤塗り (ミノライト、トレイ、版)

張れた版が乾いたらボックス内の半分の電気を消し、暗いところで乳剤を開け、トレイに注ぐ。大体トレイの1/4~1/3くらいまで。乳剤を塗る際は暗い場所で版を図のように立てかける。



乳剤を塗る。トレイを版の下方に当て、ある程度傾けて乳剤を版につける。乳剤がトレイの端から端まで版につくのを待つ。



乳剤がついたらトレイの角度を少しゆるめ、角度を一定に保ったまま速やかに上方にスライドさせ①、乳剤の膜を作る。一番最後まで持ち上げたら、最後だけ手首を返してすくい上げるようにして②、余分な液がたれないようにする。失敗したらもう一度下からやり直せばよいが、あまりやり直しすぎると膜にムラができてたりするので基本的には、一回でうまくいくようにする。失敗した版も感光時間をはかるのに利用できる。乳剤が塗れた版から光が当たらないよう順番に「もしもボックス」に入れていく。乳剤は乾くのに約二時間くらいかかる。

ボックス内に
あるものに
取り戻す
スペース。
管見者開きた
なっている。



作業4

感光 (感光台、原版、版、大量の本 (おもし)、セロテープ、ホース、時間を正確にはかれるもの)

乳剤が光で固定されないよう感光も暗い部屋で行う。

感光台の蛍光灯がちゃんと全部点くか確認する。

原版をガラスに貼り付ける。

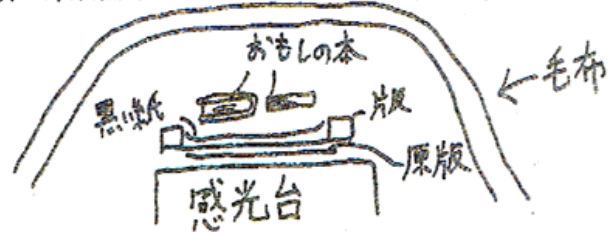
セロテープでピンと張ること。この際現版の印刷面を上にして貼るよう注意する。

旧館のトイレにホースを取り付けに行く。

おもしろの本を用意。

「もしもボックス」から版をひとつずつ出す。

図に従って速やかに置き重ねる。



感光開始。感光時間はたいがい2分15秒前後がベスト。

感光が終了したら一応版が感光しているかどうか確認してから版を持って旧館のトイレに駆け込む。

トイレでまずまんべんなく版全体に水を流す。感光しないところだけ流れ落ちますので、流れ出したらホースの水流を強めて抜けるところを完全に抜く。抜けたように見えても細かく残っていたりするので光に当てて確認する。

作業5

印刷準備 (洗濯ばさみ、ベニヤ板、固定金具、布ガムテープ)

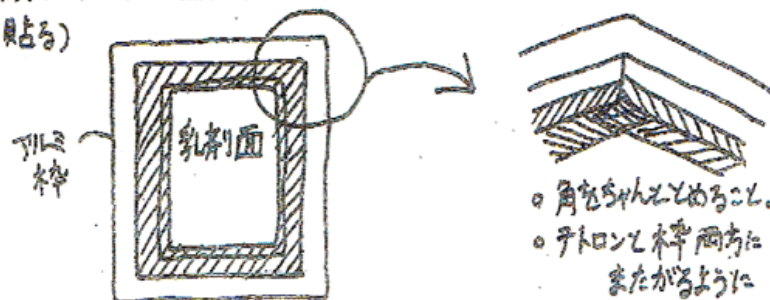
ベニヤ板を机に敷く。

固定金具を版がはさめるほうを上にして机につける。

ひもにつるした洗濯ばさみをボックス内の邪魔にならない場所につるす。

版の乳剤が塗れてない部分にインクが濡れないよう布ガムテープを貼る。

貼り方 (余料線部に貼る)

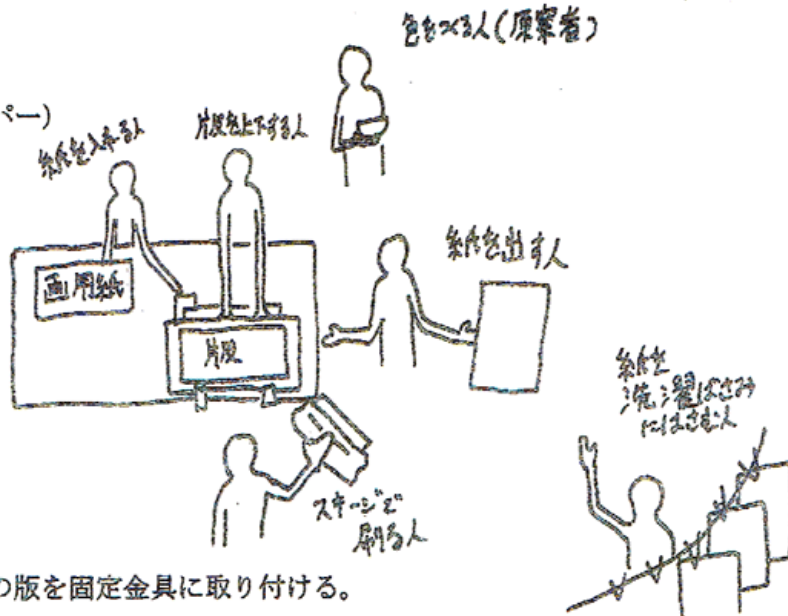


ガムテープで正確な直角コーナーを3つ作る。これは画用紙を置く場所を一定にするための目印にするので絶対必要。

作業6

印刷 (インク、ハイゾール、ボール、わりばし、画用紙、ルミラー、スキージ、版、灯油、

トイレットペーパー)
配置図



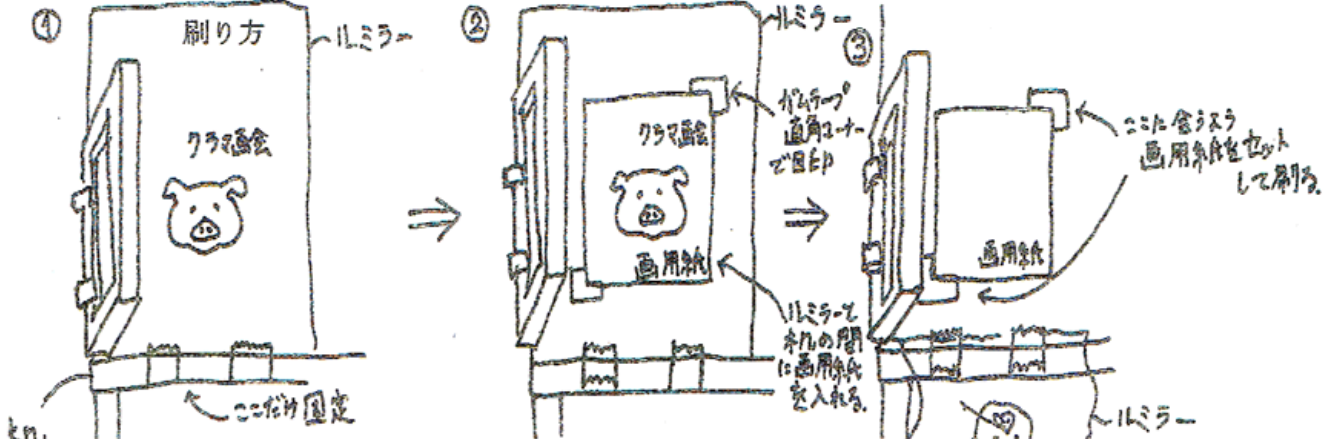
まず、第一版目の版を固定金具に取り付ける。

トイレットペーパーをある程度の長さで切り、床に大量に落としておく。(ボールとスクリーンを洗うため。)

原案者がボールの中でインクをハイゾールで溶かし、第一版目の色をつくる。

- ① ルミラーを机の上に乗せ端っこだけ貼り付け、最初は画用紙ではなくルミラーに刷る。
- ② ルミラーと机の間に画用紙を入れ、版の絵と画用紙が合う場所でガムテープ直角コーナーの目印をつける。
- ③ 目印に合うよう画用紙を置き、ルミラーをめくって刷っていく。

もし版がずれてきたら画用紙の上にルミラーを乗せ調整する。



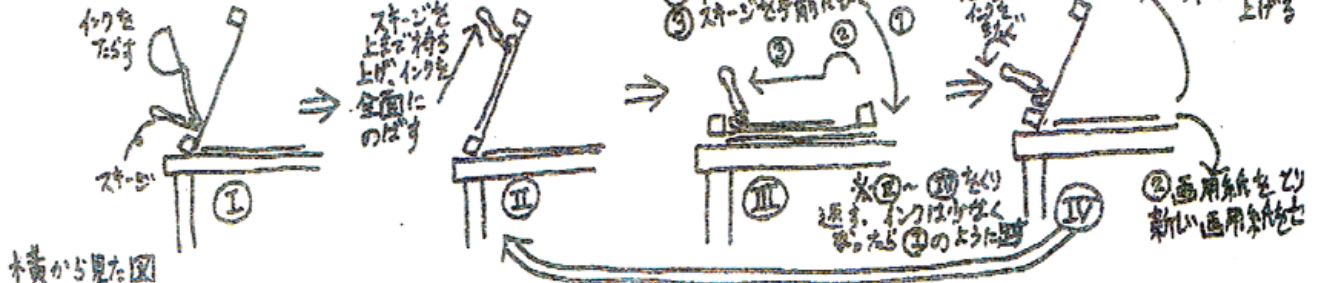
第一版が刷り終わったら版をベランダに持っていき、絶対！！に落ちないように置いておく。スクリーンは灯油できれいに洗いしっかり色を落とす。(インクがついたままだと次の版を刷っていると色が溶け出してくる。)

同様にインクを入れているボールも灯油できれいに洗う。

画用紙のインクが乾くのを待つ。

一版目のルミラーをはがし、二版目用の新しいルミラーを貼り付ける。

一版目と同様の手順で次の版を刷る。



本機から見た図